

幼稚園から帰って直後の茶の間のひと時は、子どもにとつては貴重な時間であるらしい。帰ってきたという安心感と、家の中のほかほかと温かい居心地よさと、母親が食事やおやつを用意してくれるたのしさと

が合わさって、子どもには何ともいえない幸福感を与えるらしい。子どもはしばしばそんな時に、無言で何かを描き始めたり、作り始めたりする。これは子どもの絵や製作の一番の傑作ができる時のようである。三十分も四十分も、だまって作りつづける。目は手もとを離れない。いろいろの色の折紙をさがす。はさみで刻みをいれる。幾重にもかさねて眺めすかしながら形をととのえる。セロテープと机との間を往復する。いつのまにか大輪の花に緑の茎と青い葉のついたものができ上がる。それは躍動して生命があふれているとしか表現できない、みずみずしきがある。

幸福感、安定感、時間、材料、そんなもの

のがたつぷりあるときに、子どもは集中し、考え、工夫し、創造するのだということを教ええられる。幼稚園でもそんな条件がほしい。

三月はひなまつりの月である。子どもたちは幼稚園の生活経験も十分もっているし製作意欲もたつぷりあるに違いない。おひなさまをみた時の感動も幼児には新鮮である。製作への道をつけさえすればよい。あとは子どもが自分でつくっていくだろう。

幼稚園を卒業するまでにこれだけのことを教えておかなければ、という考え方も幼児保育にはあまり適切な考え方ではないようだ。幼稚園にくるすべての子どもが、この生涯のたいせつな時期に、価値ある生活経験を必要とする、それがあれば、どの程度までできるようになっているかというこ

とはたいした問題ではないのである。

幼児の教育 第六十九巻 第三号

三月号 © 定価八〇円

昭和四十五年二月二十五日 印刷
昭和四十五年三月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座 東京 一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします